シニョレッジと日本財政の持続可能性

－世代重複モデルを用いたシミュレーション分析－

萩原玲於奈
（一橋大学大学院　経済学研究科　博士後期課程）

要旨

本稿は政府・日銀が貨幣発行により得ることのできるシニョレッジ収入に注目し、少子高齢化の進展に伴う過剰な債務累積に苦しむ日本において、持続可能な財政を消費増税のみで目指す場合とインフレと消費増税のミックスポリシーで目指す場合について財政的および厚生的な視点から比較分析を行ったものである。分析の結果、後者ではインフレによるシニョレッジ収入増を通じて前者に比べ十分に消費増税時期を遅らせ、増税幅も抑制しうるが、将来世代の効用水準や社会厚生についてはそのインフレ率の推移に大きく依存することが確認された。インフレは人々の貨幣保有を抑制しインフレ率の高い時期に存在する将来世代の貨幣保有から得る効用は大きく低下するため、貨幣を多く保有する高齢者の割合の増加が予期される日本経済においては将来にかけてインフレを低くすることが多くの世代の効用を高める。また社会厚生に関しては、政府が現在と将来のどちらの時点・世代を重視するかにより最適なインフレ率経路は異なる。

キーワード：日本財政の持続可能性、少子高齢化、インフレーション、シニョレッジ、消費増税、シミュレーション分析
JEL 分類番号：E31, E52, E62, H63